

聖隸學園の将来

聖隸の精神

理事長 学長 谷川保



「初心志るべからず」と言ふ言葉がある。何十年もたってから振返って見て、創設時、全身玉手箱を打ち込んで、やらねばならぬと決意した「初心」は、たゞえ時代に応じて形は変わつても、貫ぬくべき、貴いものを有つてゐる。

聖隸園学園は、諸君御承知の通り敗戦の直後、「キリスト教の精神に立つて全国士気恢復に備へ、絶望の底にわおられた日本を復興し救うための人材を教育養成せんとして、イスの時計学校を目指して創設した遠州キリスト学園に始ま

キリスト教の精神は、天地宇宙全世界の創造者で主にて在す神をイエスキリストの十字架の體によつて、天の父と仰くことを許された我等が、「心を尽し精神を尽し力を尽思ひをして主なる神を愛し」また、「自分のように自分の隣人を愛する」（ルカ伝二十二章二十一節）と言つことである。



百万人の老人が居、八百二十四万人の病人、百七十三万人の障害者、百三十万人の精神障害者、五万人の寝たきり老人、百二十五万人の失業者と五百万人の保護教育をしなければならぬ乳幼児やかぎっ子が居る。

神を畏れ、人を愛する人材を育成する。そのため、能力別・目的別の学級編成をし、十分教育の徹底するよう必要に応じ少人数教育をする。

ここには自閉症その他の障害児をクラスも設けて公立や一般学校のなしえない少年、殊に暗い谷間に居る少年を教育する。

ヘルパー學園は二つにクラス分けをし、中学校卒業生組と大学卒業生組とを含む成人生涯教育クラスとする。前者には、聖隸學園高校卒業生の中の希望者を五ヵ月のヘルパー教育をして、聖隸二病院、講師会から入学者が多數入学し、それら施設の働き手とし、後者は、福祉施設の働き手として、全国各地に巡回建設中のエデンの園付属病院、ホスピス等の職員として、各地のキリスト教徒から希望者が多数入学し、そこで学ぶ。この中から更に短大社会福祉科に入学し、それら施設で働くのである。

いま、聖隸二病院は、地域住民の大さな要請に応えるために、五計画等大拡張計画を立案していく。この中で、日本最初のホスピス計画も含まれる。ホスピスとは、一心回復を見込みのない病の末期患者や老衰患者等々に肉体的、精神的、靈的苦痛のないように、科学的装置や信頼指導をして、永遠の生命への喜びと希望と平安の中で死の門を通過するよう援助する特別な構造と組織をもった病院である。これらに要する資金は、全国各地に建設中のエデンの園建設資金の余剰金でまかなわれる。

聖隸學園の今後の發展は正に目を張るものがある。諸君!!  
「用意はよいか。」

# 聖隸学園の歴史(4)

# 聖隸学園の歴史(4)

— シュヴェスター・ハニ・ウォルフの残したもの —

前校長 西村ミサ

の学園の教育を経験してい。日本は、シユヴェスター・ザッハーハリック) であつた。哲學) と非物理) を散らして交錯していく実践は見事に彼女の綜合されていた。当時は、義務教育を終る家庭政事や父兄の家業等で得習得して、十八才にならぬ、という制度にならざる偏狹さはなかつたのである。羽仁姉妹は、従底して、彼女は、シユヴェスター・ザッハーハリック) であつた。哲學) と非物理) を散らして交錯していく実践は見事に彼女の綜合されていた。当時は、義務教育を終る家庭政事や父兄の家業等で得習得して、十八才にならぬ、という制度にならざる偏狹さはなかつたのである。羽仁姉妹は、従底して、

# 聖隸学園の歴史(4)

セ行つて、『天国が近づいた』と宣べ  
伝えよ。病人をいやし、死人をよみ  
がえらせ、らい病をきよめ、悪霊を  
追い出せ。ただで受けたのだから、た  
だで与えるがよい。

(マタイ一〇章七一八節)

「はい、皆さん、隣子はどうして下から頬をくすぐるのですか。我々も無意識に身につけている習慣を羽仁姉妹は、一ヶ月論にのせる。「下から頬をくすぐる」とは、上から上から下から下から紙が重なってくることで、紙目によりがたまらない、「なる程」と皆喜ぶ。どんな小さな事でも、も原理のない実際はないのであった。妥協と感傷でこまかすこと多い日本人には、シンドイ事も多かった。しかし羽仁姉妹のこの教育が生徒達に与えたものは、肝試し知れず大きい。

を陳情して、北高時制が学級的をして入れて下さった事もある。この頃は、学長が当時の副院長東原先生になつてゐた。この時ははじめて教室の並びが行われた。改進して専用の実習室ができた。當時ベットを作つて整備し、押入れに入れてあつたりネン類も新しく戸棚が新設され、床は満足度高い。専用の職員室と生徒室は満足して、医師、その他の講師がここに出入りして下さった。講義料を形ばかり出す様になつた。先生方はよくそれを寄附して下さった。無理で金を貯めようとする生徒の小遣いの如きはなくなり、学校も充実してきていた。それは病院上部病院の発展であつて、看護婦養成である事に変わらなくなつた。この様にだんだんと学園も充実してきていたが、それには多くの苦労があった。この様な中で、北高時制が実現する事が出来たのである。

田 あわてて近隣の幼稚園の先生に呼びかけて、動が芽の丈夫

まつてそれを飲む。」  
注意もない程に誰かの方へ  
簡単ながら往生院へ  
た処では人は自らの生死  
いかの様子で死んでいた。  
昨夜生徒たる羽仁は、  
あと羽仁は、  
準備さうやうのいめいに死んでいた。  
高く戸と門を閉め、  
くどくど開ける主の主人と唱いつつ、  
清澄な歌聲を病院へ入る。

の事である。  
めつた。

声を上げよ、庄  
つ真暗な山路  
と消えていくよ  
け……栄光の  
君の君来まさ  
ローリークを挂

# 労作に創意と工夫を

引佐町洪川キャンプ村でのワークキャンプ

聖隸での

行わる。朝 労働の身度を整

かに真面目だったと思は。ほんの

二時間と三時間の違いは大きい。

それから三日間 講堂で開会式が行われた。

エントレートは、三年間の労

作のメイン

年の夏休

みに行

る。

るワーク キャンプである。作業は体操組合員の指導の下に行われた。一年生全員と全教員が、すりばら状のキャンプ場の集中労作により、各個人がその働き姿勢を問われる。近年はテニスコートや校庭作り等、学内に仕事を行なわれて、開発を期して、校外に仕事場も設けられ、一泊三日で行なわれた。

「中々おもしろかった」

二年 石野揚子

三日間のワークキャンプを一言

で言えば、中々おもしろかった。

キャンプ村の整備で枝を束にす

る仕事をしたが、蜂にさまれた

頬をついたが、单调な作

業の繰り返しながら小さなハブ

シングもあって退屈しなかった。

自分に自信を持った、燃え切

ったばかりの木立の中でも

東を流れ作業で運んだ時、全く

車はほこりを立てて通るし、太

陽は照りつけるし、スイカは食

べて来たないキャンプ場なのに手伝

う。汗を流すまで、一生懸命になっ

た。汗を流すまで、一生懸命になっ

た。汗を流すまで、一生懸命になっ

た。汗を流すまで、一生懸命になっ

た。汗を流すまで、一生懸命になっ

た。

行

れ

る。

行

れ



